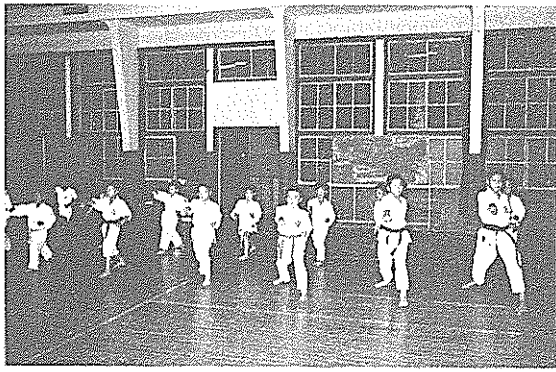
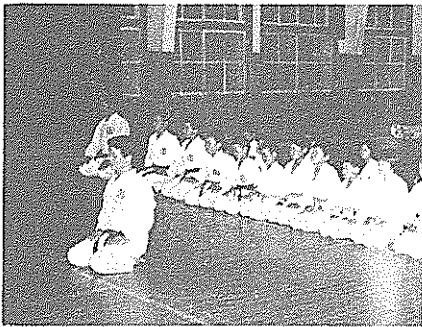


がんばっています

十市の子供たち



昭和四十九年、スポーツを通じて、礼儀正しく、節度ある人間性の養成と明るい家庭、地域づくりをめざして発足した「十市少年少女スポーツ振興会」(細谷政雄会長。現在、野球部十七名、空手道部二十七名(うち女子六名)が元気に活躍しています。



特に空手道部は、地域ぐるみの応援で、五月に行われた聖心会、全日本空手道選手権大会小学生の部に参加、全員次のような素晴らしい成績をあげました。

子供会やこの種の会の活発な活動により、健やかな成長と非行防止などにも大きく役立っています。

成績・個人組手Ⅱ優勝Ⅱ森尾康雪 段外個人型Ⅱ準優勝Ⅱ村田佳代 団体型Ⅱ八位Ⅱ細谷幸作、小松広明、森尾康雪

このほか初出場ながら、西村志保さん、井上恵理さん、村田秋朗くんも堂々と戦って、満場の拍手を受けました。

元気でウナツています

田村詩吟会

日章田村、カエルの鳴き声さかなな夜、藤本茂樹さん宅の二階では何やら荘厳な響きが流れています。ここは、秀鳳流田村教場。近所の農家の奥さん、旦那さんが集まって、真剣なまなざしで漢詩を吟じています。

この会は、二年ほど前、近所付き合いが少なくなってきた現在、地区住民の親睦と生きがいある生活のためにと始められました。現

古木への愛着

池本豊子(関)

竹の根のしつかりと縛った川岸の堤も
 永年愛着してきた古木も
 時代の変わりと共に、何の奥深いものもない
 冷たいコンクリートの壁が幅十五球を運んでいる
 つい、三月前までの古木の緑も
 冬には、身に凍みるような冷たい風をささえ
 温もりを与えてくれ
 夏には、涼しい風を心地よく肌にも思わせてくれた
 あの古木は、もう二度と見ることができない
 何十年いや百年にもなるうか
 それは、ある日、あつという間の出来事だったと、人は言う
 古木の命は断たれてしまっていた
 目に見た時は、もう人々の焚火になっていた
 夜も眠れないおもいで、古木への想い出はつきなかつた
 忘れ去れない古木への愛着に、涙が頬を濡した
 でも、時代の移り変りに心添えてゆかねばと
 心して思う今日この頃



在、会員は十名です。みなさん、忙しい仕事の合い間での、週一回の練習が楽しみで待ちこがれています。吟詠は八時より十一時、十二時へと熱心に続き、吟ずる顔もいつしか威厳を感じさせます。

会員は女の方が多いのですが、「声をはり上げて吟ずるのは、気分よく、ストレス解消にもなり、仕事をしながら、炊事をしながらうなつている」とのことです。

福井先生によると、「詩吟は、健康にとっても良く、礼儀作法も身につく」とのこと。

地区住民が、同じ趣味で結びつき、生き生き人生を送っています。